

諏訪地方の 経済概況 速報

2017.10

2017年9月末調査／2017年10月30日発行

SUWA AREA
ECONOMIC
OVERVIEW



諏訪信用金庫
SUWA SHINKIN BANK

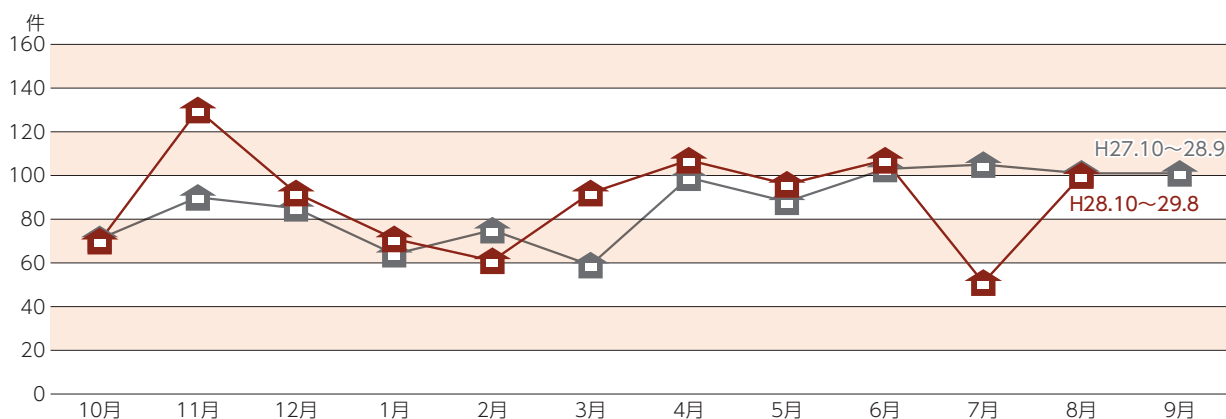
諏訪地方の概況

9月は、北朝鮮の核実験や米国の大型ハリケーン襲来などリスク要因はあったが、総体的に世界経済は好転し、日本も景気回復のすそ野が広がっている。また、中国がガソリン車禁止を検討し、国内自動車大手が電気自動車開発に向けて連携する動きもあった。月末には衆議院が解散した。

諏訪地方では、製造業は幅広い業種で旺盛な受注の企業が多いが、材料や汎用部品の不足が目立ち、業況に影響をおよぼしている。また、大手企業のデータ改ざんや無資格者の検査など日本のものづくりの信頼にかかわる問題が相次ぎ、先行き不安の声も出ている。非製造業は、商業が近隣で開業した大型ショッピングセンターの影響が懸念され、観光は台風の影響があったものの、長雨だった前年同月より入り込みは増加した。建設業は公共工事の発注が増えている。諏訪地方の8月の有効求人倍率は高水準で推移し、労働力不足が常態化している。
(諏訪信用金庫の取引先約130社へのヒアリング調査による取りまとめ)

		実数	前年同期比
有効求人倍率【8月】(諏訪公共職業安定所管内)		1.65倍	0.09ポイント
手形交換高【9月】(諏訪手形交換所扱) うち不渡り発生状況	枚数	3,743枚	△1,268枚
	金額	4,394百万円	△1,780百万円
	枚数	0枚	0枚
	金額	0千円	0千円
車庫証明取扱件数【9月】(諏訪地方合計)		994件	3.3%
新設住宅着工戸数【平成29年4~8月】(諏訪管内)		461戸	△7.1%

■新設住宅着工件数の推移(諏訪地方合計)



製造業

「旺盛な受注の一方で、材料不足が深刻化」

9月は、自動車関連業界で世界のトップメーカーの一角が、自動運転と電動化への技術転換計画を発表したり、電気自動車の基幹技術を共同開発する企業連携の新たな動きが見られた。一方で、昨年の軽自動車の燃費データ不正測定問題に続き、無資格従業員の完成検査問題や広範囲にわたる部材性能データの改ざんが発覚した。現在好調な受注状況となっている諏訪地方の輸送用関連企業からは「業界の常識では考えられないこと」とする声上がり、先行きへの影響が懸念されている。省力化機械は、企業の設備投資が活発化し、旺盛な受注状況が続いている。半導体関連も総体的に高水準の受注状況だが、一部では一服感を感じる企業や低価格傾向で収益への貢献度が低下したとする企業もある。旺盛な受注に対して、多くの業種で材料や部品の調達が困難になり、代替品も品薄になり、工期延長や納期遅れが発生している。

金属製品 プレス、メッキ、熱処理など	国内向け機械装置関連は好調に推移し、省力化機械やロボットなどに使用される受注品が多い。自動車部品や電気部品関連も高い水準で推移している。半導体製造装置関連は、製造ラインで使われる部品で生産能力を超える増産要請がある半面、一時の勢いが薄れ横ばい状態となった企業がある。増産見込みがあっても将来の減少懸念から、増員には踏み切らない企業がある。
一般機械 工作機械、専用機械、省力機械、検査機械など	省力化機械は、幅広い分野で旺盛な受注状態が続き、来春ごろまでの受注予定が入っている企業もある。増産要請は強く、当面継続する見通し。新型スマートフォン向けや自動車部品関連などの需要も多い。高度化する中国の製造業で、日本製の需要が高まっていることなどから、工作機械や産業用ロボット、建設機械も好調な受注状況となっている。ただ、材料や部品の不足が深刻化し、部品供給が生産に追いつかず、完成品の納期や売上に影響をおよぼしている。
電気機械 家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、半導体関連など	新型機種発売に向け、国内の電子部品メーカーはスマホ向け部品の生産を増やしている。産業機械向け電子部品は、工作機械の需要増加に伴って受注が活発化し、フル生産の企業がある。自動車のEV化に向けた電池製品向けの受注も増加している。ただ、部品調達に時間がかかり、納期遅れとなって売上計上できなかった企業もある。
輸送用機械 自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など	近年になく各自動車メーカーが好調に推移し、諏訪地方も自動車部品関連は前年同月を上回る受注の企業が増えている。受注残の消化に追われる企業もある。ただ、日産の無資格従業員の完成検査問題がおよぼす今後の影響が懸念される。減速機は、中国の設備投資による産業機械向けと、国内省力化機械向けで受注が増加している。建設重機は五輪関連の建設需要などで増加傾向となっている。農業機器分野は新興国の農業の近代化、機械化が進み増加傾向が続いている。
精密機械 時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など	設備投資が盛んになり、工作機械や検査器、装置内に搭載するレンズの需要が増えている。全国的に高い技術を持つレンズ加工企業が減少し、受注が集中する傾向で、1年先までの受注が決まっている企業もある。デジカメは、スマホにない機能を備えた高機能機種に需要がある。圧力計部品も好調だが、慢性的な材料不足で在庫を見ながらの加工処理となり、効率が悪くなっている企業がある。
製造業全般	鋼材は幅広い分野で需要があるが、北朝鮮問題や品質データ問題の影響が懸念されている。味噌は、即席みそ汁や春雨スープなど加工食品は堅調に推移している。年末年始に向けて需要が増加する見込み。寒天は、今冬の製造に向けた現場作業員の確保が課題となっている。原材料の高騰も懸念されている。ニットは、百貨店の販売減少に伴い、大手アパレルメーカーは苦戦を強いられている。秋冬物への期待感が強いが、先行きは不透明。

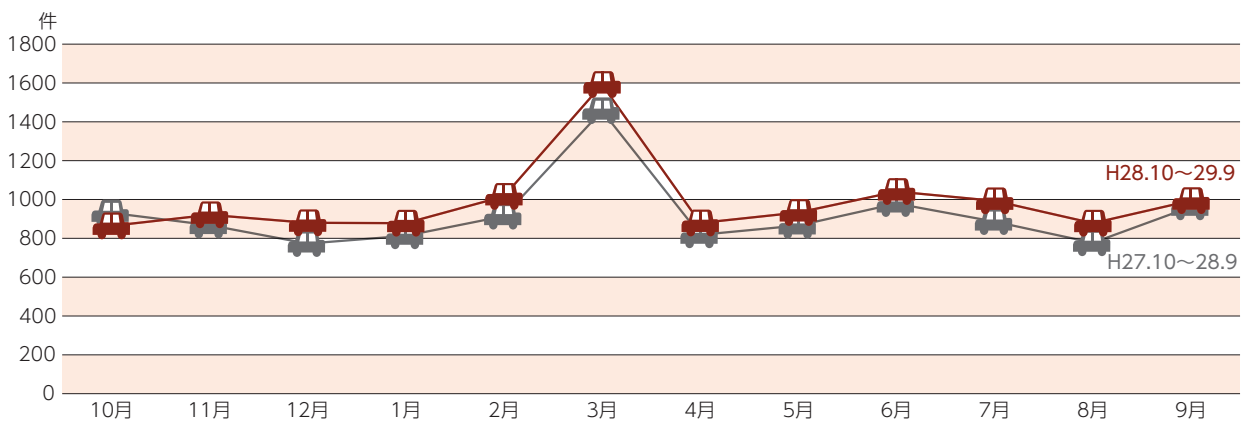
商 業

「食料品仕入れ価格が高値傾向」

外食産業は、仕入れ価格の高騰に加え、台風で客足が減少した。自動車販売は増加傾向となってきたものの、大手企業の不祥事が発生し、販売面では今後、取り扱い車種によって異なる影響になると見られる。大手宅配業がネット通販の拡大で荷物の取扱量が急増し、人手不足対応で値上げを決める中で、諏訪地方のコンビニなどでは自宅に訪問されることを嫌う消費者が、商品を店頭で受け取る動きがある。電子書籍の普及は、書店だけでなく、印刷、製本、製紙業界にも影響をおよぼしている。9月は松本市で県下最大級のショッピングモールが開業した。直後の影響は少ないと見られるが、長期的な諏訪地方への影響を懸念する事業者が多い。

衣料	天候の回復とともに、行楽用のカジュアルなジャケット類に動きがあった。下旬に気温が下がったことで、秋冬物が動き始めた。
食料品	サンマやスルメイカなどの水揚げが少なく、旬の魚介類が高値傾向で、葉物野菜や果物も8月の天候不順と9月の台風の影響で、高値で推移した。
家電製品	新型iPhoneが発表された。スマホは誕生から10年が経過し、市場が成熟し、機能と価格の間で消費者動向が分かれている。
自動車	諏訪地方の9月の車庫証明件数が994件で、前年同月比32件、3.3%増加した。11ヶ月連続で前年同月を上回っている。
タクシー	法人の需要に動きが見られ、徐々に走行距離などが増加している。
飲食店	米や海産物は品薄感から値上がり傾向で、原材料価格の上昇に悩む店舗が多い。休日の家族、グループ客の減少傾向もある。
書店	文芸書のヒットがあり、文庫本も堅調だが、コミックが不振。日系イギリス人のノーベル文学賞受賞が発表され、起爆剤となることが期待される。
野菜直売所	キノコ関連は、今年は不作気味で、リンゴなど生育が良い果物が主力となる。贈答品も動く見込み。
タイヤ専門店	スタッドレスタイヤ値上げ前の駆け込み需要があった。

■車庫証明件数の推移



観光・サービス業 「ハイキング客などが増加」

諏訪地方は、記録的な長雨だった昨年9月に比べて、今年は台風はあったものの、平年より降水量が少なかった。高原の施設ではバイクのツーリング客は減少したが、観光客の入り込みは堅調に推移した。料理に力を入れる施設は高額でも集客でき、顧客満足度が高い傾向が見られる。テレビや雑誌に取り上げられて知名度が上がり、大幅増加した施設もある。小中学生の体験学習は、準備に時間がかかり、火を使うキャンプが敬遠され、ハイキングやカヌー中心となっている。諏訪湖周辺では総体的に団体客が減少傾向で、施設によって業況はまちまちとなっている。

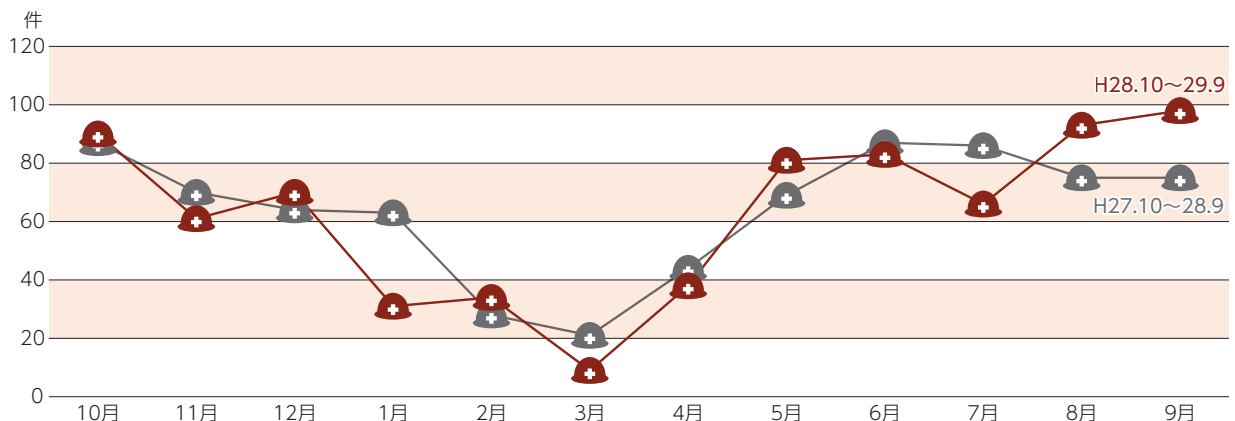
上諏訪温泉	宿泊客数は施設によって前年同月比16%台の減少から15%台の増加と、まちまちだった。個人客は前年を上回っているが、グループや団体客が減少している。三連休に台風によるキャンセルがあり、売上に影響した。インバウンドは前年同月より増加した。
下諏訪温泉	学生やネット利用の個人の宿泊客は増加しているが、宴会利用が減少し、客単価も低下している。
蓼科・白樺湖・車山等	8月の天候不順の反動もあって、観光客の入り込みは総体的に好調で、中高年のハイカーが目立った。首都圏からの小中学校の体験学習もピークとなった。富士見方面は、入笠山ハイキングや雲海 Gondola、花の里が好評で、団体客が堅調だった。
諏訪大社	上社・下社合わせた9月の参拝者数は約7万7千人。前年同月比では約3千人の減少(△3.6%)となった。御朱印ブームの影響などで、上社は御柱祭で増加した昨年を上回った。

建設業 「公共工事増加の一方で人手不足」

9月の市町村からの受注工事は合計98件、734百万円となった。前年同月に比べ、件数は23件、契約金額は91百万円増加した。国県関係の平成29年4月～9月の累計公共工事(地元業者受注分)は、前年度より件数は減少したが、契約金額は増加した。ただ、人手不足が要因の入札不調も見られる。民間工事は、諏訪地方の8月の新設住宅着工戸数が100戸で、前年同月比1戸減少(△1.0%)した。平成29年4月～8月の累計では35戸減少(△7.1%)の461戸となっている。

公共工事	9月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は、諏訪建設事務所14件、諏訪地域振興局林務課1件、県警察2件、その他1件の合計18件で、契約金額は1,160百万円だった。4～9月の累計は84件、3,422百万円で前年同期の累計比で件数は6件減少し、契約金額は334百万円増加(10.8%)した。市町村からの9月の受注工事は、建築工事3件28百万円、土木工事および下水道工事71件520百万円、その他工事24件186百万円となった。
民間工事	諏訪地方の8月の新設住宅着工戸数は、前年同月比の利用関係別で「持家」は1戸減少の68戸、「貸家」は6戸増加の28戸、「分譲」は8戸減少の2戸、「給与」は2戸増加の2戸だった。長野県内の8月の新設住宅着工戸数は1,014戸で、前年同月比0.5%減少した。前年同月比の利用関係別では、「持家」は2ヶ月連続の減少、「貸家」は3ヶ月連続の減少、「分譲」は2ヶ月ぶりの増加となった。

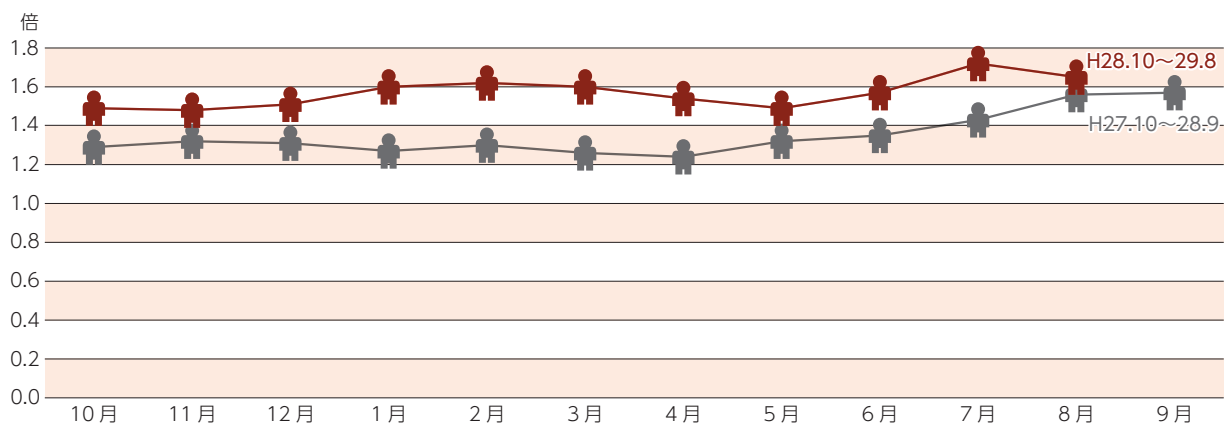
■公共工事の推移(市町村合計件数 調査・測量・設計など業務委託は除く)



諏訪地方の8月の有効求人倍率は、前年同月を0.09ポイント上回り、前月を0.07ポイント下回る1.65倍となった。前月の1.72倍は下回ったものの、3ヶ月連続で1.5倍台を越す高水準が続いている。1倍台の維持は41ヶ月連続で、前年同月を上回るのは51ヶ月連続となっている。長野県平均は1.62倍で前月を0.01ポイント下回ったが、2ヶ月連続の1.6倍台となった。全国平均を38ヶ月連続で上回っている。全国平均は前月から横ばいの1.52倍で、正社員の求人倍率も1.01倍と3ヶ月連続で1倍台の大台を越えている。完全失業率は3ヶ月連続の2.8%だった。

諏訪地方の新規求人数（全数）は1,568人で、前年同月比159人減少（△9.2%）した。要因別では、「継続する人員不足」「業務量増大」「欠員補充」「創業・新分野展開」の順。業種別の前年同月比の新規求人数は「運輸業」「製造業」で「増加し、「その他サービス業が減少した。新規求職者数は762人で、前年同月比54人増加（7.6%）した。1件10人以上の人員整理は1件あり、事業主都合による雇用保険資格喪失者は56人で、前年同月より36人増加、前月より28人増加した。

■有効求人倍率の推移



《企業のひとこと》

- 神戸製鋼の改ざん問題、日産の無資格検査問題が今後どう影響するか気になり。業界の常識では考えられないこと（輸送用機械製造業）。
- 自動車メーカーはEVへの移行を加速するという見方があるが、充電設備などインフラやバッテリーの問題があり、当面は現状のまま推移し徐々に変化するのは（輸送用機械製造業）。
- バブル越えというが、実感はない。北朝鮮のミサイル一発ですべてが変わる。東京に落ちれば予想がつかない（輸送用機械製造業）。
- ようやく中小零細企業の末端まで好景気が感じられるようになった（電気機械製造業）。
- 働き方改革は、大手企業が改善したように見えるが、実は下請け企業に押し付けるケースもあり、中小零細ほど難しいテーマとなっている（一般機械製造業）。
- 納期が3～6ヶ月と長くなり、景気次第で不必要になる可能性もあり、これまで口約束で受注していたが、確実な注文書が必要になった（機械卸業）。
- 苔をモチーフとした土産が売れている。定番の蕎麦や野沢菜はあまり売れない（観光業）。
- 低価格販売を止めても客足が鈍化せず、売上が増加した（観光業）。
- 商品の仕入れ価格が上昇し、メニューを改定せざるを得ない。全体的に景気が良いという実感はない（飲食店）。
- 全国的に自然災害の復旧工事が最優先され、新規受注が減少し始めている（建設業）。

長野県の金融経済動向

(2017年10月2日) 日本銀行 松本支店

— 2017年の公表日の前営業日時点で利用可能であった情報をもとに取りまとめ。

長野県経済は、緩やかに拡大している。

最終需要の動向をみると、公共投資および住宅投資は横ばい圏内の動きとなっている。設備投資は緩やかに増加している。個人消費は底堅く推移している。この間、生産は増加している。雇用・所得は、着実な改善が続いている。企業の業況感は、改善している。

生産

生産は増加している。

半導体関連・電子部品等では、スマートフォン向けのほか、データセンターや生産用機械、自動車向けの受注の強まりから、生産は増加している。

自動車関連では、海外需要が総じて堅調なほか、国内需要が新型車等を中心に底堅いことから、生産は持ち直している。

機械・同関連部品等では、計器は、建設機械、半導体関連向けなどで生産は増加している。工作機械は、自動車や半導体関連の設備投資の増加を受け、生産は持ち直している。成形機は、堅調な海外需要を受け、生産は増加している。バルブは、プラント向け需要が弱含んでいることから、生産は横ばい圏内で推移している。

飲料では、茶系飲料やミネラルウォーター類の需要に支えられ、生産は持ち直しつつある。

設備投資

設備投資は緩やかに増加している。

設備投資は、17年度は製造業を中心に前年度を上回る計画となっている。

輸出は、17年度は前年度を上回る計画となっている。

企業収益は、17年度は製造業を中心に前年度を上回る計画となっている。

個人消費

個人消費は底堅く推移している。

県内大型小売店(百貨店、スーパー)売上高(当店調べ<店舗調整前>)や家電販売額は、底堅く推移している。新車登録台数は、着実な増加傾向を辿っている。

公共・住宅投資

公共投資は横ばい圏内の動きとなっている。

住宅投資は横ばい圏内の動きとなっている。

雇用・所得

雇用・所得は着実な改善が続いている。

有効求人倍率は、上昇を続けている。名目賃金、常用雇用者数、雇用者所得は、振れを伴いつつも緩やかに上昇している。

物価

消費者物価指数(除く生鮮食品)をみると、8月は前年比で1%程度のプラスとなっている。



SUWA SHINKIN BANK

諏訪信用金庫

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

TEL 0266-23-4567 FAX 0266-23-8044

<http://www.suwashinkin.co.jp/>